

園だより 2月

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し

心に広い道を見ている人は 詩編84篇6節

園庭の山茶花が満開のときを迎えています。白木蓮には小さな白い蕾が膨らみ始めました。桜の木々もまだ硬いですが沢山の蕾が付いています。子どもたちと共に園庭で冬の花を楽しんだり、少しずつ春が近づいていることを感じながら過ごせる日々感謝のひと月でした。とにかく園庭は暖かい。かさばる防寒着を着なくても外で十分に遊べます。裸足になっても大丈夫。身軽に活動できることは幼児期の子どもたちにとってどれほど嬉しい環境であることか、改めてこの恵みに喜び過ごした日々でもありました。

新学期が始まってすぐに、今年も「獅子舞い」を舞っていただきました。（その様子はインスタで披露しています。ぜひご覧ください）。舞いながら近づいてこられるとちょっと怖い獅子ですが、獅子舞が終わり、獅子頭を被らせていただいたりと、他では出来ない経験にどの子どもたちも興味津々。年長の子どもたちからは早速、「獅子を作りたい！」と声が上がりました。それから年長組の部屋では「お獅子」の制作が続いていました。

子どもたちは経験をするとそこからの発想で新たな経験に繋がります。子どもたちの主体的な遊びの展開です。ある子の「作りたい」のちいさな願い呟きから始め、イメージしているもの(今回は獅子舞いの獅子)をイメージに近いものに、またはそれ以上のものに作り上げることを楽しみました。そこまでの過程でどれほど様々に子どもたちの豊かな関りが成されることでしょうか。それぞれの心もちが交わり、お互いに良い(共感し合うこと、意見の違いなど)影響を与え合いながら、目の前には少しずつ感動に値する制作物が出来上がっていきます。関わる子どもたちみんなで感じる達成感。そこまでの素材の選択、イメージの共通理解、ひとりでは思いつくことが無かった展開への共感などなど、多くの気づき、心の動きがありました。それこそが教育であると実感します。この三学期の時期だからこそその子どもたちの遊びの展開でありました。

今は年長さんが完成した獅子頭を被り、太鼓のお囃子に合わせながら園内中を練り歩いています。其処に興味を示す年少中の子どもたち。年少さんには獅子舞いではなく、お囃子の太鼓に興味を示し、早速先生に「太鼓が欲しい」と伝え、工夫しながら太鼓に見立て音遊びを楽しんでいます。子どもたちの「作りたい！やってみたい」の今動いている心もちにどれだけ呼応しながら遊びを展開するか、それこそが大切な教育の日々であると思います。

あと少しの今年度の日々をその様な嬉しい日々として過ごして参りたいと願います。よろしく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子